特別
へ10
6865

宮城県図書館蔵書

つまくたるまに白くて硯あしろしく仏
あうはゆらゆらはゆらゆらかたくかた
さはく孔あるやうに物くるはれて
屋代せみしいも生て孫ゆうかるさいと
こそ多ゆる孔四門者四位ゆかりかと
竹者とは竹の末葉にて人間なるる
ゆらゆら屋しいよれ一乃人多四五横
はくべて人もと孫ゆたし竹きりゆし
竹五葉ましいよりて金あさ孔とゆか

宮城県図書館蔵書
57-926

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

君はまことに所さきとなりき
ぬ
つねさう世のそしりとつたへ
きゝさしに申しあつかり侍る
ものをいかなる孫たちと
ちしよう侍るにかはりけ
もとてうみはうつゝ女はたゞ
ものゝ海のかはのさまとさ
ぬ
陸奥世代事伝の通あるに
伝はるかつまの流るゝ人のかはるま
梅つゝ野へ人なほいつゝ
ゝ侍りけるとなりけ

侍りけるとなりけ
海は那基代中納言代しし配所月
はるくてらしけるも世はかはるあ
神仏の屋しはしまきて抜らし
みさみたいたるてあるし中書と九條
太政大臣屋園庄大臣
へ沙へつゝ源殿の孫とやくく
伝る東のとゝ伝のいとあき事所とて世は
きつの頭の物語はいかゝ哥徳太子四天王

かりそめの世ぞと思ふ時ぞかしこはかきまぎれ
くまの孫のせとと行かるるかとや
あるべき時ぞあきはてぬ鳥辺の煙
けぶりの雲に伝へ行くらんかしこ物
哀をもかしこ世はさらぬ命
あるべき物はなしと人をとどめきぬ晴れぬ
とまらぬ涙かなしき秋とちぬるかな
はるばるとてはらふ花もなかりけり
すべなく思ひそめしとうき一夜の夢ぞ
ちぎりそせられて世ぞ人歩き海は待らて
たちかはきし命なりけるとて
ちぶりの花ぞ立ちかはるけむ真花
とぞ思ひ海はたりぬ心ぞ
ぞ田舎人の田ぶ孫とおもひてさうの事は
しりて命とおもひ云ふ
つくもの物の哀をとどめ成りぬ滅さ
世人ぞ心とぞ云ふ三ぞ人
心とものうとの物非ぬ

かすかに聞えて知るべうふる
の食はかるすべきもの物くさ伝
人の物の妻のきの白さはべく面とう
るしに城ほどまきたるにいみ
あはせ寄せしに外はるかるの郭はかるしか
妻のうてさかしに人のうてりの人
のほうこるこるけるこるけるこるこる物
とるこるこるこるこるこるこるこる
も人のこるこるこるこるこるこる女
のこるこるこるこるこるこる
のこるこるこるこるこるこる
のこるこるこるこるこるこる

かすまうかゝ八ゆ八行の足ぼうゝ八まうて
ゆくうゝはゝし実ゝ八さとへ
あ屋ゝはゝさゝくゝあるゝはゝさいゝ所屋
ゝとゝ行ゝ無ゝ行ゝ物ゝ八ゝ八ゝ物ゝあるゝふ
行ゝ八ゝ行ゝ所ゝさゝ八ゝ月ゝ光ゝ八ゝきゝく
ゝゝゝゝゝゝ行ゝ行ゝかゝ八ゝ行ゝかゝきゝかゝ
ゝゝゝゝゝゝ

いたりかがくるまかまをさせ殿の川をさいうと申し
そそそそ殿をいうをけかかを廊作りを綾少路
の方のおりをさせ殿の中のをんはをあを
りけをうをれををかかをたり田八丈まを作
しをををらしかをを井を池の幡と
をりけまを田ををうをををををを人
の方をうををを作くいんうくくををををらしか
徳大寺をもをうををの作をし
永正月の作くるをを所をををを

山里を移をを作りを遣をを梅道を梅
をを今をを作をを作をを庵をを木葉を
りをもをかけをの三度をををををを
物をを厨作棚を筆を紅葉を析敷
ををいをかを作人の方をまををを
をもをれけをを長を作をを花を屋
大をを村を木を桜をたりを作をを
ををををををををををををを
けをを作木れををををををを

なるべしと人々いふめれど物語してかきつ
るを世のちゝはゝさまをもうけ給へ
うゝ物の面目なりとぞ人々
かたらひあへりしかんだち物語
たゝへかゝしかのいとはけ
物語にまたゝ詩もあり
なるべしあるべきさまをもうけ給
かくりて置てなほ
かいりかさを我とぞ

物語の歌の所々に
のる松風の歌のきこえぬる哥とて
ゐる歌のすこしてさけ
らしけるとて哥を前義判のけ
沙汰のとて侍のさ感しにけ
けるに長の日記のかけと哥
の一のかたとて津也とい
もとえの哥をすの詞哥枕を者
けるのすの物のすの屋とをとを

くすかてもきこえけみ袁も梅かえ[illegible]ゐ梁麿
杉乃野曲乃翁いそ之袁ちる事おもかし
ゐかし者乃人ゐたくんみ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
ゐ那ゐゐくきゐ乃ゐ

[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]

[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]

[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]

けく財をもとめ世をばいとなむこそ
かなしけれ人のとめるいとなれ
ども身のいとまなく
かなしけれ人もうとくもてはなれ
くらしけるとしのくれ物はて
はをなりはまてなる時まれなれ
はかりの風ふきはらふかたとてを
てはのをとにもうとくもてはなれ
うたがうらすかりし孫康が文月

ふ食をもてはやしはしのまはかりの栄
申朝ふ花やきちらしてはうつれ人
うふ花をいとはしの高ゐをはしの人
けはいまてのの人の移
なりあはれはかりふそ物ふそふ衰れ物
の衰ふ秋ふそはまとふ人ふそふ
まてふ物ふて大うふ貧ふ伝もうふ之
ふそふ高ふそきふふそ行ふ鳥ふ
ふそふ外ふ春ふ日影

みかの原の草もしなへて風ふき梅の
花のかをりをさそひ来たりぬれば
ふるさとの梅の木の下に立ちよりて
こゝろ地もいとゝ面影うつりはべりぬ
こゝろ数とりあつめて青葉まじりて萬
ぶの花とうつりかはりすゑ枝の若みどりの
梅の実はみのりの秋の月の
しらつゆ玉のごとくなるを
田人出て数々をうきけみ者共
はるかに海をへだてゝ田をたがへた
事ハ海ハ灌仏ハ若葉ハ梢を
ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]の朝に[illegible]物[illegible]
[illegible]源氏物語[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]物[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

そして後中とつ郡に人の見てきた
所のありさまを聞くに大小の石
ありあるじいとくちなし
ちいさくて口と穴とみさうに曉かくるる
ものとなる成の石塔を伝て
はきたる人をうる後にて玉はつとさ氏
所郡みうるに所のりまれかくみうるばかる
ふみてあるいそ家ちかくて明
り穴のうきに出田かるさてあるとの孫
とりへ郡数伝ちるとるに海松
くうとてちるかみうまつをたるいとまく
あるなれ
ふかとあるかりまして人の生れたるも
なるあ身にそなる石塔のうきに行き所
ばりにそ蛭おさをえんあ(はま)
萬の事に月にいたるくしい物の孔にある
人の月ちるまたにうに物にあるとかりあ
ゆとに長ばいそうば家の孔にあるとしいたる
けまに竹みあれ大小みかが家のうきに

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ふそいとをかうちたてまつるべきさ
人ぶたせ給ふ
たちなほる事乃去てゝ心ぶかく九重に祈
祈ぶ上るこゝ也ぶ海いそ去はすなわちてきき
る孔雀経堂乃ゆくさかなるまゝにしの小門の
小さいなる小さいきゝめてゝ所ぶ
ゆくさいたちとんなりきたり屋ちたる処
てなくいそきゝめれちんぶよりまつけせよ
たちんなくいそんなりけまとる此たれとくゝ

ゝ小さうたちたりゝ上邸の
陣ぶていたるゝ海ぶけゝ弦司此ゝ
人ゝ乃ゝなるかゝみるれなるもたりさりる
ふしさゝなりゝかゝ眠るなるいそた
ゝ侍所ぶ乃ゝ此ゝとゝりてゝ
く使ゝ物所ゝ油大寺此大殿者
たゝゝ所ぶ孔けゝ
ゝ文乃ぶゝ文ぶたりゝすゝ柳ゝ屋
けくゝりゝ此事此張ゝたりゝ紙行ま

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

平兵　伯吉　三論　貴布禰　吉田

大原兵　杉尾　梅文

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かくて石の西天王寺の大門金堂
をとおりてすぎて西の門に燒
金堂にはたてまつるまにくれぬ
はるのひかりは西の山にかくれ
殘りなく大小の仏九躰のたうとき
おがみまつり大鐘の額をみかけの
ゆゑにはかりしかばやがて
をもはかまを侍りと見たる法華堂
しかくうつる石殘りなく所にいとけりうつ

三月石をくうつる殘りなくもはるかに
今をいまはまとしまして萬ゆえしき世まり
なくとしてをいてをかるはけり
月もはるかにうつりぬ伝代をまをかして
春月をかをくをまを南ラにをうつをを忘
まを物をうをの世の外ゆえ
今をうをうをををとてかをき物をかけまして
白き糸をうをををかをを遠の花をき
をうをまををををけくをををを

河院の百首の哥の中に

昔すみし人の跡の荒しなる

はしらばかりぞ宮ぢ侍りし

住吉の岸の姫松風吹かば

なほ聞えんと思ひ侍りし

新院の仰せ給はせけるを

殿ばらの会はしたりける

会の世の事とはさしかへ

はしらばかりぞ侍りし

倚廬

源圓の宮ちかくまかりて

侍りしに

板ぶきの小屋をかりて

廬とかけり

ものさうぞくしたる

ものとて

ぬれ衣の

ぬぎかへ

侍りし

なほ聞えんと思ひ侍りし

昔すみし人の跡の荒しなる

はしらばかりぞ宮ぢ侍りし

住吉の岸の姫松風吹かば

なほ聞えんと思ひ侍りし

新院の仰せ給はせけるを

殿ばらの会はしたりける

会の世の事とはさしかへ

はしらばかりぞ侍りし

源圓の宮ちかくまかりて

侍りしに

板ぶきの小屋をかりて

廬とかけり

ものさうぞくしたる

ものとて

ぬれ衣の

ぬぎかへ

侍りし

[illegible]
[illegible]
[illegible]

木葉ちりはてて夕の風ふきつ
よりかつとけの松へ出こ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
草[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

夫人をのけてこれを物ゑ[illegible]て出給
まうしはてゝ海佛の[illegible]物[illegible]かゝれ
ゐ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

もたらす人のなかとなり成てこれを食ふ
ゆゑに桂玉の薪なくして利ゆゑに愚
なる人へとりもちて君を殘しいて
ゆくはかるゆゑに信をかたくしてと
しも人をかたくしとなりはなれて敵せ
きはめてこるさ信ゆゑに極をつく
くすれば賢人聖人もまたくに屈して
ゆくるゆゑにたつきを信とすれども
なるゆゑにこれを世の稽古
なるゆゑに智恵とこれを世の稽古

巻をつくしはなはだ巻をはなれて
ゆくゆゑにやはりゆゑに人をもて人を
ゆゑに世のうつりすはなはだしく人のとも
さゆゑに雖とうつりはなはだしく絲
をうん巻をくるまきとして仕の君臣
て更ゆゑに益ゆゑにいまはなはだ
しく仕をなして智とすめ賢と称ふ人の為
にくく智をくんはゆゑにあらず能の好惡の
偏をしはくきて愚をいふ

あるすがたをの知がたく可とも不可とも
一除しがたきものとの善とも悪とも人の智也
はかりがたく功もなく右の雑の三ヶ条
はつたん罪過とかつ愚と守るべきあり
ものを賢愚過失分明ならざるべきなり行ふべし
四人乃仏ばかりて右利乃要とすべしなく
今ハ萬事ニ付邪しいあるべきなり弥かぶる
甲香ばかりの仏ばかりなるべきなり
ニ出ル員代もさし歳花園かひさうの浦ニ

三ヶ所ばかりの所ばかりとも給とそんなく
月情園ハ行乃人ハ道とかやいとまあかりち
らと向て人ハ多ハ少ハ方なりはまとさしとめ
ばかり乗とかり食く更ハ米代だんをとがを
はまとかるいとあるばかりなる人ハ又ゆ実と
あるすとて親ゆさうもきり
六月ばかりの家のうへハ又給ハ東代ハ
雑人三ヶ所ばかりとかとかとか

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

と西園寺とうちうちの院宣にて
いうこゝろをもつて
をくりたまふ人々も
ひとつにかの人の
ひとつにかの人の
ひとつにかの人の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

満座眞水入事涙を流し三ヶ日かなそ後宴し
さるに大かさ又ハ酒宴事ゑあてんかく
さいしゑ海しをかなかをかくを孔人まつりと
かけく無ものたらす孔子孔子ハ屋流を
はまをしを非事をさ屋うくくを三ヶ日くたる
はうくんかさをとうかけてをけ引杖を
ぬをて京ちくをしをつをを道をを人
乃ゑくを今ゑを涙をを人をを今を
しくをうををしを杖をを屋たかけめ

物ををくをちをきて同らすかを
をを文ゑを人をを偽ををををを
仁加事ハ帰をを三をきをををる毋をを杖か
をををををををを同をしをを
かを同をを水をををを屋たハ耳鼻を
をを孔をを命をををををををを
たををを引水引鉢をををををを
をくをかをを偽ををくハをを引をを耳
鼻かけかをををををき命ををけく

[illegible]
四室ゆゑ[illegible]き見つけてさうへ出して
[illegible]ゆゑ[illegible]たつて能の稽古
邪[illegible]かうへ風流の[illegible]に[illegible]
又出さうの[illegible]のみ[illegible]
乃便に[illegible]所ゆゑ[illegible]
[illegible]ゆゑ[illegible]
[illegible]出[illegible]
[illegible]

[illegible]
達磨試[illegible]
[illegible]
[illegible]
又[illegible]所[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

唐橋の中將と云人の
相の人の邪と云ふ病
を屋にして大なる穴
を出かさうとせまし
く成て目眉額たしも
なけれども物を見
うけかたく成て
かたつき額の穴鼻
はなうとおとこ
成て三年まで
病もなおらずして有けま
あれはなを屋にして
もとの如くなりぬ
あるべし
ふかき物と成て
あるべし
用べし
みなもとの
年に隙なくして
成べし

[illegible]
[illegible]
[illegible]

死と出でんとなりしみ何の眞をして朝夕君に
はべるべとかつとなんとまりしに公緣
みをなれくらはべるべ周りて道のかた
其の人の其者の人みとはべるに林に入くも儀と
なけ鳥とかをくよりはべりて為まに
ものさるれとりつ者はべりしに
もたるにあれ木とはべりしはべりてそし
はべるべるさるはたるが柳にたしはべる
西下の事しなるかみ道に入くは

とし人なたるをこはべるに花なる何者かと
しく多みるべるす紙の梅と梅に鶯
鳴きはべるさるあり其一株
をかしの所いとあるくなれるくなる事
かしにより面白きて悪みうるく善み
道はべるべるをなるに三面
みんりみるくは世はるるまし事にあるはべる
れ至みしくるべるとはべりて美梅みなし
くしい言類みかりの所あるまるや

大事と存じ候へ共、さかく心みがらしにて
候へとも、とてもの事に、枝へさへ、つり
たるくかの事、たとへ、つりぬる人
あさましやうしの事、難かるべきもけく
事来る所まで、其事、かしの物
ゝ物さかりあるべき思ひしみいろさ
ゝ、とかくかさるべきてはつる涙もく
思へ、三日もたつすれば、人となれと
ゝ、心のまゝきりゝ、人おのれ、憎みてを一期い

とくあるべきさ大ぜいにつりやう
ゝ、身となるべしとも、弧はもかつてなを
と、枝ゝ、の孔ばかり命、人とつもれい
平常、なる事、水、人をしらるとすこわり
の孔ばかりにもれと、時、親とけ
寄る石の息、情とてかゝとて、枝ゝ、
真乗院小國親僧都とて、ゝ、孔
ちるやきもの心かゝ物と、ゝ、多食
きも、後義の、大ゝ、鉢ゝ、

感ずるにおよぶ是は食物を文を積はか
りはかの事にて候に七日二七日にて療治して能
なて異変なしとかたるとうくるに多
食て萬の病と食きらひ人あくとなる事
有物にて候へはきいめてはなるはかりの邪
道死海に錢二百貫と塔一とは護とならはと
塔と百貫ありうとてかまこいまこ萬文とんか
らはくと定て京去ちの人なつを是十貫
はを死学てかからしばはうとはの秘少文
ゝ用ありうのなこてはて共ほくなる成ちと
こ萬文の物はけはこさ身ほうけくかなるへ
はの弟ありるかりて道にを成て人中はる
仏僧邪にのなはのとくこ三ありると成と若
と付てはけがこの物と人の向はまてこの物と
我を三ちもこにはりこ三かこ仏僧つくるはいてん
をへけの仏僧邪に人めくかはくく大食ゆく
能有ニの近年右人ありとく氣家はは灯形
きて寺中にををを思氣てはまを安はか

[illegible]ものくれたりしを見て萬自由にして大家にも
[illegible]かの事を出仕する卿饗膳をしつらひけ
[illegible]ものあるとて[illegible]たる我あるにまかせ
[illegible]てかつをきをれ粥つい
[illegible]ものくれたりしを人をもくれて
[illegible]武家にたれば夜中にも暁にも食て
[illegible]をけまして[illegible]をかけ給へる大事にて
[illegible]人の事用まして[illegible]目さめまして[illegible]夜
[illegible]をなすをもはすきくうと梅さあるきうよ

[illegible]人にも学萬ゆるまて
[illegible]ものはけるあや
四産の時強[illegible]たとへ[illegible]
胞衣をこの時の[illegible]
[illegible]給
本院の大原の里[illegible]
[illegible]花の給ふ[illegible]
[illegible]
[illegible]
延暦門院とけるく[illegible]

人数出立て申けるを見て川辺
あるじ牛の角をそろへ
こゝろくばりいたす分
段七段あるを載せとりつゞいたるや盃
人数あつまりて酒盛
きり一さしの相伴中
引出物をとりあつめ
車の後にかゝる
家司信濃守
代官の冠者
おきのりする人
四郎殿さうう
代官付くるいとゝ
武藤殿
けるを一枝
もゝきん
みけるを
小
代官の冠者遅なく成てこたゝ
おきのりする人
四郎殿さうう梅の枝鳥一双
代官付くるいとゝ川磨かへ下
武藤殿
けるを一枝
もゝきん
みけるを
代官の冠者
小

てけくとゝいふ花きり武蔵ノ国ト伊勢ノ国ノ桜梅
ノ枝はいたりて数々なるかたちにつゝみ葉たり
もはゝ枝のうさ七尺かゝ力なきにたる枝ハ
かたゝ鳥とはゝくゝ山海ちる桜はゝ曽桜を三
らあらはすゝみて二所はゝくゝ花ノ色ハ白
うらとけてけみらくゝ切て牛ハ角ノ枝ハたい
しゝて初雪ハ朝桜と肩ハかけて中ノ間ハ
ゆきくゝ山ノ大刀うちはけはゝくゝ雪にあらは
はけと切たゝ山ノ数

て二株ノ山ハ雪ハ三る桐ハ山ハ雪ハ袖と出ハ
ハ肩ハかけて雪ハ三ちくゝ初雪ハ山ハ
雪ノ山ノ雪ハ花ノ雪ハ山ハ雪ハ
ハ山ハ雪ハ山ハ雪ハ鷹ハ腰とる
ハ山ハ雪ハ山ハ雪ハ山ハ雪ハ
葉ハ鳥ハ山ハ雪ハ山ハ雪ハ月
ハ山ハ雪ハ山ハ雪ハ梅ノ花ハ雪と付て君ノ為
ハ山ハ雪ハ山ハ雪ハ山ハ雪ハ物語ハ
ハ山ハ雪ハ山ハ雪ハ山ハ雪ハ

実成の岩本橋本業平寳家に常に人
々侍まして一上せられ給ふ文月
廿日とて人笛吹て遊給ふ寳す人々
小舟のうへにて行き橋本のあたり水
近くまとゐ給て物書給ふ月はなて
夜と詠ふ人々の歌ども多くありけり
人数人々岩本社にてうけ給はるべ
きことなりまうらの中にて知たる
人々ばかりなり

人々出河院の近辺にて集まりあまた人々
かりの時常に百首寄とて人々に社
四十の水にかけてたいしたる歌ども
ありて参りて人々口ずさみ寄ばかり
文に席をまうらの人々
筑紫三ヶ所にあり
人々はつうらの屋にて物
毎日二度屋にて食
時数の田舎人

歌

[illegible]
命と打ちて戰ふ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

定つる道理物の上にて見れば事とかく
事なれば人の其道に立る事なれば
其道に立る人は仏神の御
今時とは大かた物の
御座て人に立る事と
へ我也と云事なれば人の
我と云ふ所の
云へ所也とも
小さき所合かた

仏面目なる仏祖
らかす人の真実
とかしもきんて
御座まこと定
おもさ也只常に
なしに萬だ
たゝかくて
事なれば人の
つゝ仏祖
仏と云事

[illegible]
[illegible]
[illegible]

金人とだに重物ゆゑ人一人に限一度脱相
とのことを定まるゆゑ合ゆゑ人とのことを
得失度しゆゑ四人の人ゆゑ碎乃
ゆゑ長とすゆゑ始くんをかくしまして志
ゆゑ人人ゆゑ人ゆゑ地道と
ゆゑ紙ゆゑ仏ゆゑ身を周ゆゑ
ありすして乞ゆゑ志ゆゑ
なりしゆゑ人ゆゑ本位能学
関の縁ゆゑ唐河上観ゆゑ

武乃ゆゑ高ゆゑ歌も脱ゆゑ人
ゆゑ法師ゆゑ梅中ゆゑ
ゆゑ人ゆゑ人ゆゑ
ゆゑ法師ゆゑ人ゆゑ
世中ゆゑ人ゆゑ
ゆゑ人ゆゑ東西
人ゆゑ同ゆゑ
ゆゑ法師ゆゑ世
乃人ゆゑ我者ゆゑ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

法師乃いわく寸上達部殿上人とてもの
へく表とおもひしに多くの百度たりしかども
河内守なる武勇乃者は定かゝる其故
運ぶ乃つとてあるはなさく時勇士乃ある
ものとも人数乃矢はさ矢大きいとてつるぶ歌
みてくらす死と屋とをてはなりて者は
ものすべて道へ分るし死ぶ武ぶいいぶるとも
人倫ぶとはく禽獸ぶ近さ根本をぶ
ものすべ乃とて益すれぶふるる

屏風障子ぶとも給と文ぶのかさくるぶ屏風
うとてぶれなるり乃ぶきくきりとぶ何ぶ
るくぶいぶと大家とて為る明るりさ伝たる
ぶる為事ぶ為へ乃きれ物ぶは持へぶ
ぶあるぶ槍をしたあとて為る乃ぶくきさ
ぶいとするぶはしして用ぶれ事とる言人
ぶはしくぶ乃ぶるとぶ乃ぶ為ぶ屋ぶ
てくるとしるすぶ乃ぶ物ぶれぶきぶ
ぶと物乃表紙ぶく槍ぶ為ぶ人乃ぶ人

[illegible]
[illegible]
[illegible]

法眼と花乃天竺ゆきまうして古代聞ばつて
かすを病みあるを濫乃食ばかりを給けるとと
聞くさらるを人ゆゑ世下いて仏より花気を
人乃国ゆて仏乃弟子と弘融僧
都の傳ゆるをけるを花乃弟と人乃いい
を法邪者乃ゆるを花乃ゆるを仏乃
仏をしるを弟子と伝ゆるを世間乃
ほうを正乃人をうをしとまをるを
弟子と人乃賢と入てをるをしをもゆるて
たるを弟子と人乃賢たるを人と仏乃賢と
仏大乃利をとらしをあるをうきを利をと
けを伝かるを石ばかりを人をを
仏ゆたの人乃ゆるを仏をさをとをまを
乃人ゆ下愚を性をはの人をを利を
を解をへるを加ゆを賢を人乃賢
弟子を大法をとらを則利人を悪人乃賢
人をとをさを悪人を護をとをを護乃ゆを
解をとをを解をを賢を

[illegible]
伊賀の中納言の風月堂才知とめ人々一芸精
進して禅法をうけて寺法師の圓伊僧正と
同宿して伯父の文保の三井寺に居る時
[illegible]
寺をうけまして今は法師といて寺住をして
もはやうさ秀句成きり
下部に酒をすゝめて伯父僧正
伯父の方に京に具覚房と云ふ
道者僧三人ありて成はまこと寺にいとひ
通ふ[illegible]ケ[illegible]はまして遥ケ嶽口つき
とりに先一めはとそて酒と出て[illegible]
きしらふとの大力[illegible]
ケ[illegible]く[illegible]
みて京に長法師[illegible]
代男三人しらへ日ゝ孤山中と[illegible]
とりとりへ大力とも
[illegible]

はなを砕きて[illegible]給ひ
[illegible]ことなりて高氏男
具光場あへく口惜事恥ぬ物哉と
重祈する所に俗うすする者は海つんと[illegible]
あはの大かしらの[illegible]事とゝ[illegible]
[illegible]落りてゐたりしを[illegible]
[illegible]て出あへく戦いとゝ[illegible]
かしはの切ゝりとけを[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]てはゐる[illegible]血はして[illegible]治大[illegible]の

[illegible]走へ[illegible]くて[illegible]
しらかゝれ具光場[illegible]原[illegible]
[illegible]と求出てかたてさ[illegible]
腰[illegible]
[illegible]武道[illegible]
[illegible]と[illegible]相傳[illegible]
[illegible]大[illegible]言[illegible]物道[illegible]時代
[illegible]
[illegible]物[illegible]侍[illegible]

奥山に猫またといふものとて人を食ふ
事ありけり山寺に猫乃怪ありて
猫またといふて人を食ふものとて物
をけるとかの猫怪行てやんごとなき連歌をこのは
の所の彩色遍照の屏風に猫のかたち
身のたけ五尺ばかりなる男の所をも五所
みてとりかくして連歌をしてゐるかつとけるを
小法師ども見てよりて屏風をたて
まつりて後にきて座をまきしかの
猫はなにとしてきたるぞとて法師
ども小法師ども小法師ども
猫にまきつかれてあくるまで
きてゐるとて全座をしてゐる僧ども
みて法師中ちかくなりて連歌の
かけをして屏風にかくれて椅子の
けるものみけるかくたるとなる板
みてとりかくして東の間なる犬をとり
はなしてとうとうとけるかとて

大納言法皇はしめて乙鶴丸屋を見給
ひけるとて常にいかがしらぬ所あり時出て婦
きたりとは法皇ゆりくゆりて屋を
ちらすのつまとかたてはとりて屋を見給
たとこは法師とて氣なく袖かきあはせてかく
らしかからはとて又こゆるきたりかか
らうとて又こゆるとうしし
赤吉日とゆる事信陽道にはこれ事者
人家をとらんとすれば出てゆくこと

ゆるしてはいかがとこはらすしかして其日
ゆくすらしとこはらすかなる事得たる物共
りくたくたらしとこはらすとこはらすとあつて
吉日と撰こすなるべきはしめとかなてこ
しものへこそかなるべき故に常変異さうい
あるとなるべきもあるべきはたらす志し
こけるとこそ又たすけ人乃公不定物合幻
化ちとの事うの斬も信仏法とは知ら
吉凶悪はすべし必凶悪吉善とたうるべ

必吉凶人ハ吉凶人ハ為て思ひ
求人ハ求ハ求ハ毎ハ毎ハ毎

[illegible]
[illegible]
[illegible]

下る〜御物べかりの御ものいてう君御はうしつり
べきと申まはまと小面と那ものなれきり勅号
とるれ上那るけけく刀を奉るて仏師
箱の内かべ紙はしるはしらんりかへ御つけ御さ
とりるまの人御ものと御かく油御はけ表
紙御付の事表裏ものれへ墨ものを雑ものの文の
箱だくく右御はくものを箱御油御はくるる
るれ小〜とだくせるれ
めれ者人とゝ草あるられこれるる人

かり草せ者人て付まして那ものを御
乃てとくて
其物御はそれ物御はゝるこれ
必あり身に風あり高御孫と乃人あり國と城
はつ小人と付る君の御仁義を傳御法御
なりそれそれへとれけのれ事付く一
こ草侯とあり君付ものるれ乃人御仏
御へくだくく事あて
三ものせまをあるまと田ものを事だ尾ものを記

[illegible]

本[illegible]

道[illegible]

[illegible]

上藩[illegible]

[illegible]

[illegible]

名武の相國殿上にて水とりけるに
かさ古器とたづねしに
とりそ海ゐてとりけ
ゐ大納言式部卿の
由紀のりすけ宣命とうけ
き殿上にまゐ
りて
平大納言清忠卿近侍
洞院の右大臣公賢
女房と申うけ
女房男と姉と海ゐ
給ひしかば女房
物にてとけの近
つゝは忘て外記とめ
ゐ人なかつゝさは
悪人なりけ
大光寺殿にて近習

[illegible]の所へ[illegible]志[illegible]と[illegible]
の大納言[illegible]卿の我朝の物[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ケるハてたけ里けこハまちる里しきて
ケるもゆゝ
こるゆうをうゝ上ゝ人京ハうとけのみいて通
みてこるに乗ケる女ハ
ゐ男ゝくゝ引くこるは場ゝ席てきも可
ゐ殺ゝくゝこてあてこいけ此殺籍ゆ
郭此弟ゐゝ郭比兵ゝ比尼ゝ比
尼ゐ傾姿ゝ傾姿ゝ
表ゝ

兵と場きハケる未曾有此悪ゐ成ゝ
口引ゐ男ゝ
殺ゝ上ゝ人ゝ
姫此ゐの男ゝ
ここ三りゐゝ
して
州ゐ成ゝ
樓ゐ雖ゐ
ゐ相

[illegible]

[illegible]

[illegible]

堪能の士を撰ばれつるみ上洛
なりと聞えけれ人々ゆゆしき
ことと天下の物笑ひ
同心なりしかども
人道のおきてたゞく
世をしたがへて萬
道かなはぬ
恋人かなりしを
ふし柳の枝にたれ

志人の事とも人々もうらうとも
もおもふ人大なる萬
ものさい屋にて
ゆゆしき下愚
ゆゆしきことも
ものはかなかりし
ものしたる第一
西大寺殿静御前二人腰かたつき眉三ぢ
ゆ清とけたるを

[illegible]と西園寺殿内大臣[illegible]
[illegible]て行法のきこえあるはまことにはか
[illegible]と見て[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

るきこゝろをもちけるかゆゑにかくの
ごとくなるべき病死の移来るこゝろ
よりたゝるものなるべしこゝにて
死期にのぞみたるものも来り
ともなひてうばわれ人々の死すること
知て待事こゝろ忘るゝこと
てきるかたき千万なれ共
ゝ塩乃ごとくなるこゝろ